

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|---------------|
| 施設番号 | 44 |
| 施設名 | 葛飾区小谷野しょうぶ保育園 |
| 施設所在地 | 葛飾区堀切4-60-1 |
| 法人名 | 葛飾区 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生物
～身近な生き物の生態～

<テーマの設定理由>

旧小学校の跡地を利用している環境の中で、普段から生き物に興味を持ち、捕まえて観察する姿が多く見られたことから生物をテーマとしました。

2. 活動スケジュール

令和7年5月：テーマを決定
令和7年7月：必要物品等実施準備
令和7年8月～令和8年12月：実施
（内訳：8月、9月、12月）
令和8年3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

飼育ケースや土、えさ、水槽などを用意し、自然に近い環境の中で、生き物がどのように生活するかを観察した。
スライドや図鑑も準備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・令和7年8月

身近にいる生き物で「ダンゴムシやおむし、かぶとむしやメダカはどんな所に住んで、何を食べて生きているのか」という問いをもとに、子どもたちと一緒に飼育ケースに生き物を入れ、環境を整えて、育つ様子を観察しました。カブトムシの幼虫に触れない子は軍手をはめて触っていました。おむしが蝶々になると、「逃がしてあげよう」という声が出て、みんなで羽ばたいていくところを見送りました。ダンゴムシが土の中に入る様子なども見ることが出来ました。

・令和7年9月

ホールに集まり、生き物の生活についてみんなでスライドを見ました。卵から成虫になる様子や、食事をしている場面など、とても興味深く集中して観ていました。

・令和7年12月

メダカが卵を産み、赤ちゃんから大人になるまでを観察しました。小さい赤ちゃんをいとおしく眺め、水槽のタニシが食べないかを心配していました。タニシは水槽のお掃除屋さんで、メダカを食べることはしないということも学びました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

身近な生き物たちの生活の様子を知り、成長の様子を見る中で、生き物にも命があることに気づき、優しくしようとする思いやりの気持ちが育っているのを感じました。「いっしょに入れて大丈夫なの」といった疑問を一緒に図鑑で調べたり、保護者に話をしてお家で調べたりしていました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

疑問が生まれ、そこから「自分で調べてみる」ということが増えたと思います。また、思いやりの言葉が多く聞かれ、友達に対しても優しい気持ちが育っていました。

生き物が死んでしまった時にどう対応したらよいか悩みながら、年齢に応じて伝えていきましたが、とても難しいと感じました。